

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501636
法人名	新居浜医療福祉生活協同組合
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホームあおぞら
所在地	新居浜市南小松原町8-68
自己評価作成日	平成 27 年 1 月 21 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 2 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の意見を聞き、自己決定出来る生活の支援をしています。</li> <li>・生活に四季の彩りや季節の野菜を取り入れたり、行事を大切に、一年、一年心豊かに暮らして頂いています。</li> <li>・職員は自己の資質の向上に研修や自己学習に努めています。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅街の事業所のある建物の1階部分は民間のアパートで、2階部分が事業所となっている。近隣に住む地域の民生委員の協力を得ながら、隣接するアパートや地区の住民と積極的な交流をしており、災害発生時の協力を依頼するなど協力関係ができています。事業所前には河川敷があり、窓から桜並木や季節の移ろいを感じることができ、夏には花火大会を楽しむことができる。利用者は小人数で家庭的な雰囲気が出ており、利用者は自由に思い思いのペースで穏やかに過ごすことができています。職員は利用者の残存機能を大切にして一人ひとりの思いや希望を把握しており、常に利用者には喜ばれることを考えた支援に取り組んでいる。そうすることで職員の意欲向上につながり、仲が良く笑いが絶えない良い関係ができています。「自慢話の会」という事業所の良い所を発表する機会があり、良いところを見つながら職員同士の仲は良くて明るく、利用者の和やかな生活にも繋がっている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あおぞら

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

前谷 満里子

評価完了日

平成 27 年 1 月 21 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念に基づいた介護を常に心がけている。また、理念を意識確認するよう各自が名刺サイズに書いて携行している。</p> <p>(外部評価) 開設時に管理者の思いを表した事業所独自の理念を職員に確認してもらい作成している。「尊厳を大切にし、こちらの都合を押し付けない。相手に寄り添ったケアをする。質の高いケアを提供し利用者・家族から愛され、明るい笑顔と真心を持って接遇に努める。」という理念を職員は常に考えながら実践に繋がるケアを提供できるよう努めている。理念は事業所内の目のつく場所に掲示しているほか、名刺サイズで印刷されたカードを携帯し、職員全員で共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会への参加と職員が地域の方と積極的に挨拶を心がけています。公民館活動に参加しホームの理解につなげる努力をしています。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入して回覧板や会報で地域の情報を得ており、地域の祭りなどの行事に利用者と一緒に参加している。お手玉遊びやいきいき体操、オカリナ、マンドリン、歌など様々なボランティアの訪問があり、中学生や高校生のワークキャンプなどを受け入れ、利用者と一緒に楽しみながら交流をしている。管理者は公民館の絵手紙サークルなどに参加し、交流を広めるきっかけにも繋がっている。また、地域住民から野菜の差し入れをもらうこともある。建物の1階部分は一般のアパートで、行事の際にはごちそうやおもちなどおすそ分けをしたり災害発生時の協力をお願いしたりするなど相互の協力関係ができています。利用者と一緒に地域の一員として積極的に交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 中学、高校生を対象としたワークキャンプの受け入れをしている。26年度は高校生と中学生を2泊3日で受けいれました。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 認知症の啓蒙活動で地域へお芝居で理解を深める取り組みをしている方を講師に迎えたり、当ホームでの看取りの取組み等で話し合い、家族の要望等も知る機会となっています。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、ボランティア、市担当者等の参加を得ている。会議では事業所の状況報告を行うほか、講師を招いて講和をしたり市歌を歌ったり、利用者の体験談を聞くお話サロンなど行う工夫をしており、和やかな雰囲気で開催されている。家族会や行事と併せて開催することもあり家族の参加が多いが、地域の関係者や市担当者の参加の調整などが難しい状況である。</p>	会議へ参加しやすい日程や時間帯などの検討を行い、自治会長や老人クラブ、婦人会などの地域住民に参加を呼びかけたり、市担当者や警察署や消防署などの機関にも参加を依頼したりするなど、多方面に参加を呼びかけることを望みたい。多方面からの参加を得た会議が実現することにより、参加者から出された意見がサービス向上に活かせることを期待したい。また、会議への欠席者や参加できなかった職員や家族など、会議録の書式を工夫するなどのために、誰が見ても分かりやすい会議録を作成することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市町村の主催する研修や、地域密着部会で担当者から指導や助言を頂いたり、実情を相談できる協力が得られています。</p> <p>(外部評価) 市主催の研修会や月1回の地域密着部会に積極的に参加し、指導や助言をもらっている。介護認定の更新時など直接市の担当窓口に出向く場合は、市担当者に相談や質問をしている。2か月に1回介護相談員の訪問があり、利用者とは話をしたり、事業所の状況を見ていただき意見をもらっている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束0を常に実践しています。利用者の尊厳を守り、日々穏やかに暮らしていただくよう、温もりある介護を心がけています。</p> <p>(外部評価) ナイトミーティングなどで勉強会や話し合いをしており、言葉の拘束を含め議題に度々取り上げ、職員は正しく理解して拘束をしないケアを実践している。外部研修に参加した際には職員に伝達研修をしている。利用者には毎日の時間の使い方や過ごし方を押し付けることなく、自由な生活が実現できるよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員は身体拘束の弊害や廃用症候群について学ぶよう研修に参加している。入浴時やケア一時身体に異常がないか注意して見守っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用している利用者がいるので職員は制度や必要性について理解出来ています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約内容について管理者が読み上げ御家族に理解して頂けたかその場で確認し合意を得て契約書を作成しています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議で、利用者、家族の意見を参考に外出や行事を開催し、本年は子供さんとのふれ合いの機会を2回もちました。	
			(外部評価) 年に3回家族会を開催し、事業所の活動報告や利用者の生活状況を見てもらい一緒に食事をして楽しく過ごすなど、状況を細かく説明し利用者のことを分かってもらうよう努めており信頼関係もできている。運営推進会議にも多くの家族の参加があり意見交換をしている。カンファレンスにも家族に参加してもらうほか、面会時には職員から声をかけるなど、意見を聞く機会を多く持つようにしている。また、出された意見は迅速に対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月第一金曜日に定例で運営会議を開催している。職員は全員が発言の機会をもっている。事業所の本部より、理事の参加があり、運営推進会議への助言等も得られる。</p> <p>(外部評価) 管理者は「会議の時に意見を言いましょう。」と職員に徹底して伝えており、定期的にある運営会議では積極的な意見を出し合うことができている。出された意見などの詳細は引継ぎで報告したり、ノートに記録して職員間で共有している。ナイトミーティングでは熱中症や接遇、感染症、腰痛体操などの勉強会や話し合いを行い、外部研修にも積極的に参加し職員の資質や意欲の向上に繋がっている。 「自慢話の会」という事業所の良い所を発表する機会があり、職員同士で意見を出し合いやりがいを持ちながら資料を作成している。職員同士の仲は良くて明るく、利用者の和やかな生活にも繋がっている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の配置は法令を遵守している。年1回職員は自己評価をし管理者と面接し、本人の要望や資質の向上のため研修の機会や給与水準の見直しをしている。利用者様のためにも離職者を出さない努力をしています。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 日々のケアの実践から職員同士が学びあったり、研修への参加や、又事業所内での事例発表会、伝達講習会、ナイトミーティング等、種々の研鑽の場があります。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会の研修への参加、ケアマネは地域密着部会の研修に参加しています。又職員はグループホームの相互研修を利用して他の施設と交流しケアを学ばせてもらっています。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 施設見学には、家族・本人様も来て頂いています。契約時も可能な限り同席し、グループホームのことを説明し、不安なこと、求めていることに答えるようにしています。事前に家庭訪問させて頂き環境等生活史を知る機会を持っています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談の段階から家族の話を傾聴し利用者様への思いや今後の希望等も話して頂けるよう時間をゆっくり持たせて頂いています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者様の気持ちを大切に考え、生活の全てを変えることのないよう、本人の思い、家族の思いを受けとめる。家族との一緒の外出や寺社への参拝等継続出来るよう支援する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お話しを聞かせて頂くことで学ばせて頂くことが多く、しきたり作法等教えて頂いております。毎週来所される家族さんもおられます。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) いつでも来所して頂けます。お話しを聞かせて頂いたり御家族の思いも大切に、爪切りとひげ剃りは私がしたいと希望される奥様にはケアに参加して頂いております。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) お友達が来所されたり、同居していない御親族の集まりの場になっております。  (外部評価) 今までの習慣を継続希望する家族には利用者と一緒に馴染みの神社へ初詣に行くなど、可能な範囲で対応している。事業所を利用していることを隠す利用者や家族も多いが、親戚や以前担当していた介護支援専門員、事情を知っている友人などの訪問があり、ゆっくり話ができるよう配慮するなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。職員の異動にも気を配り、利用者同士や職員との馴染みの関係も大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活状況を把握し、常に自立支援に基づいた声かけ、利用者の方が利用者を気使って頂ける家族の様な関係作りを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後の様子を伺う等、家族・親族の方への情報提供、相談に応じています。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の気持ちを大切にし、家族の方々と連携を図りプラン等に取り入れています。	
			(外部評価) 利用者とはゆっくり話す時間を大切にしており、日常会話の中から思いや意向を聞いている。思いを伝えられない利用者には顔色や態度、表情からくみ取ったり、家族会で交流を図りながら家族から情報を聞いたりするなど、利用者本位のサービスを検討している。聞き取った情報はノートに記録し、職員間で共有している。思いや希望をしっかりとってくれる利用者も多く、可能な限り支援できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者が今迄大切にされてきた暮らしを一つでも取り入れ今を過ごして頂けるよう支援しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日中、夜間の毎日の申し送りを3日間はずす事で職員全員が現状の把握をするようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族参加のカンファレンスを行い個々の要望を担当者が聞く事により安心して、相談・話し易い関係を作り、プランに組み入れています。	
			(外部評価) 利用者の思いや意向を反映し、状況に応じてできることを目標に取り入れ、介護計画を作成している。ケース記録にサービス実施状況を記録し、利用者毎の担当職員が6か月毎に集約してモニタリングをしている。カンファレンスは家族に参加してもらい、アセスメントやモニタリングを基にして介護計画の見直しをしている。利用者一人ひとりのサービス内容を一覧表にまとめ、職員全員が統一した支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々の記録、気づき等細やかな申し送りをする事でスタッフ全員が利用者全員の状況把握して頂くようにしております。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族の方々への連絡を密にする事により協力的な体制ができており、利用期間が浅く非協力的な家族に対しても理解して頂くよう支援を行っております。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりが自分の能力に合った事をして頂き、退屈しないよう支援を心がけています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所以前からのかかりつけ医への受診を支援したり、必要 に応じ、訪問診療や、歯科訪問診療等不安のない様家族の 希望もとりいれ適切に医療が受けられています。	
			(外部評価) 利用開始前からのかかりつけ医を家族の協力を得て継続し て受診することができる。2週間に1回協力医の往診があ り、必要に応じて歯科医の往診も可能である。協力医がも ともかかりつけ医の利用者もいる。往診があることを家 族に事前に伝えており、受診後は医師と家族が情報交換を 行い、利用者は安心して過ごすことができている。また、 看護師資格を持つ管理者は適切な医療が受けられるよう支 援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師は介護職員と協力し利用者の健康に配慮し異常や変 化に気づき、適切に受診が受けられるよう支援している。 又、処方の変更や受診日は職員全てがわかるように記録や 伝達をしています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した際には、訪問し関係が途切れることがな いようにする。通院時は、家族と共に指導をうけ、健康管 理の支援が出来るよう努めています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在迄5人の方の看取りをさせて頂きました。主治医、訪 問看護師をまじえ、利用者・家族の望まれる看取りにより そい支援出来ました。	
			(外部評価) 「重度化した場合における(看取り)指針」を作成し、入 居時やカンファレンス時に事業所として対応できる内容を 説明をしている。看取りは家族の協力が得られることを必 須条件とし、同意が得られた場合のみ看取り介護の受け入 れをしている。年間の研修計画に取り入れ、医師の講話な どの看取り勉強会を重ねて実施し話し合うなど、利用者が 安心して最期を迎えられるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者は合併症による状態の急変や、高齢による筋力の低下や転落、転倒の危険がある為、緊急時の連絡方法や搬送先等入所時に家族の希望等を聞き、手順を作成し実践するようにしています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を実施している。早期にもジェアラートの通報訓練を実施しています。災害時に合わせて備蓄や非常持ち出し袋等も準備しています。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、昼間と夜間の火災を想定した非難と消火訓練を実施し、アドバイスをもらっている。住宅街にある事業所の建物の1階は一般のアパートで、2階部分が事業所となっており、近隣に住んでいる民生委員に協力してもらいながら、近所づきあいを積極的に行い、隣接するアパートと1階に住む住人には災害発生時の協力を依頼している。地域の防災訓練に参加していないが、サイレンに合わせて地震に対応した訓練を実施している。また、水や食料、非常持ち出し袋、簡易トイレなどの備蓄品を用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの思いを大切にし好む生活が送れる様、又趣味や体操等スタッフも一緒に活動し楽しめるよう工夫しています。プライバシー確保のため入浴、排泄は個別対応しています。 (外部評価) 入浴は利用者と職員が1対1で、更衣時にも羞恥心に配慮した対応を心がけている。2つの居室毎にトイレと洗面台があり、なるべく同性の利用者が使用できるよう配慮している。排泄時は必ず戸を閉めて職員は外で待つなど、プライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 2回/週、自由に献立を作成、利用者の嗜好にそった内容で、サンドイッチ、お好み焼き等バラエティーに富んだメニューです。各自、自由に役割を決めて廊下掃除、テーブル拭き、ティッシュ折り等本人の意見で活動しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせて、どのようにされたいかお聞きし、希望にそった支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に散髪をして頂き、朝は整髪、更衣し、きちんと出来るようバランスも考えアドバイスをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員がそばにいて海老のからむきやもやしの根切り、シーズンには柿の皮むきをし、干し柿等を一緒にして頂いている。	
			(外部評価) 朝食のほか週2日は、利用者の普段の会話の中から聞いた好みを取り入れたメニューを職員が調理している。その他は、委託業者から献立に合わせた食材が届けられ職員がその調理と炊飯をしており、美味しい食事ができ利用者も満足している。事業所ではミニトマトやベビーリーフを育てたり、干し柿づくりをしたりすることもあり、食べることが楽しみになる工夫をしている。利用者は食事の下準備など、できることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事の摂取量を記録して皆様の好物を摂取して頂く、水分補給は、お茶、牛乳、牛乳がだめな方はコーヒー牛乳にしている。水分摂取が困難な方にはトロミをつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアは本人の力を観察し、それに応じたケアをしている。歯科往診をして頂き、治療や口腔の衛生、義歯が合っているかなどを診て頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) トイレ誘導の時間を決めている。失敗の多い方は、30分1時間おきにトイレ誘導するようにしている。夜間は睡眠を妨げないように随時対応している。</p> <p>(外部評価) 排泄パターンを把握し、誘導してトイレで排泄できるよう支援している。定期的な誘導を必要とする利用者もおり、一人ひとりに合わせた排泄支援をしている。オムツを使用している利用者が不穏な状態が続いていたが、日常生活が落ち着いてくることで声かけをしてトイレでの排便ができるようになった事例があるなど、自立に向けた支援に取り組んでいる。また、自然な排便ができるよう食物繊維を取り入れたり水分摂取にも気をつけている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 食事にたくさん野菜をとりいれている。便がでない時は、緩下剤にて対応させていただいている。水分摂取も夜間も自由に出来るよう個人で飲めるようお茶を用意しています。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 利用者様の希望通りには入浴できないが、曜日を決め午前中に週3回入浴されている。</p> <p>(外部評価) 週2回を基本として入浴することができる。人工肛門をつけている利用者は週3回の入浴を基本としている。熱めやぬるめのお湯、ゆっくり入りたいなど利用者の希望や好みに合わせて入浴できるよう支援している。入浴を嫌う利用者には職員が交代したり声かけに工夫したり、家族の協力を得るなど、無理強いすることなくスムーズに入浴できるよう支援している。長期に入浴しない利用者もおり、入浴できない日が続く場合には清拭を行い清潔保持に努めている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 利用者様のペースに合わせて自由に休んで頂いている。布団を干したり、湯たんぽ、加湿、温度調整を個人の好む方法で対応しています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 副作用や処方変更の時は職員全員が周知する為、個人の介護記録や申し送りにて情報を提供し、職員間で共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常に楽しみ、役割をもっていただきその方に合った、手を使う作業やカラオケ等を実施している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近隣を散歩したり、花見、紅葉見物等ドライブに出かけたり、気の合う同士で喫茶にでかけたりし、気分転換を図る支援をしている。  (外部評価) 家族の協力を得て、定期的に銭湯や温泉に出かけたり受診時に自宅に立ち寄りたりする利用者もいる。天候のいい日には事業所周辺を散歩している。季節に応じて、桜やハスの花などを見にマイントピア別子などに出かけることもある。高齢化や重度化に伴い、利用者全員で外出することが難しくなっているが、利用者の希望に沿って、管理者は喫茶店や買い物に出かける機会を作りたいと考えている。	利用者の要望や思いに沿って、普段行くことのできない場所や馴染みの店などに出かけるなど、五感刺激しながら気分転換やストレス発散できる機会となるよう、一人ひとりが外出を楽しめるよう取り組むことを期待したい。また、重度化している利用者に合わせた移動手段などに配慮しながら、外出できる取組みを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時等、利用者様の希望にてお金を使うことができている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様の希望があれば自由に電話ができる。ご家族様からの電話があった時は子機を利用して頂き、プライバシーを保てるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 建物内の点検を心がけ、配置をあまりかえないで過ごしやすく心がけている。環境整備に力をいれており、冬場でも細目に換気を行っている。ベランダに四季の野菜、花を植えている。</p> <p>(外部評価) リビングで利用者はテレビを見たり居眠りをしたり、ティッシュを折るなど、一人ひとりが自由な時間を過ごすことができている。壁に貼っている誕生会の写真が、利用者との話題の一つになることもあり、和やかな雰囲気となっている。廊下にはスタンドガラスの飾りがあり、日当たりもよく利用者の目を楽しませてくれている。窓から河川敷や桜などを一望することができ、四季を感じながら過ごすことができる。職員は週2回の水拭きの清掃を行い、清潔な環境を提供している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共有室にてテレビを観たり話しをされたり廊下で日光浴やCDを聞かれたりされて居られます。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族の方のお話を聞きながら家庭で使われていたり、本人が大切にされていた物を自室に置かれたりして、安心感を持っていたりしている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドとエアコンが備え付けられている。2部屋毎にトイレと洗面台の設置があり、利用者が生活しやすい構造となっている。利用者は使い慣れた寝具や整理タンス、時計、ラジカセ等を持ち込み、家族の写真や手芸作品を飾るなど、一人ひとりが居心地良く過ごせる空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの目標にあわせて声かけや誘導にて介助させていただいて居ります。</p>	